

(1) 科目の紹介

科目名	精神看護学援助論	開講年度：2012 開講学期：前期 曜日校時：金2 単位数：2	専門 講義・演習 必修
教員名（所属）	花田裕子 永江誠治		
対象学部・年次	看護学専攻2年生	受講人数：70名	
授業のねらい	メンタルヘルスの問題を持つ対象を、症状に苦しむ患者としてではなく、心理社会的な視点も含めて、全人的に捉えることを理解する。次に、自ら学んだことを活用してケアプランを考えてみる。		
授業の方法	通常の授業：PC プロジェクター、配布資料 アクティブラーニング： グループでの活動 調べた資料の共有化 全体発表会		
おもなアクティブラーニング手法	8回の講義でシネサイキナーシングを使い、グループによる課題発見 - 自己学習 - 発表を基本とする方法をとった。うつ病の映画を全員で鑑賞、グループ内で疑問や気になることを検討して分担して調べて資料を作る。主人公を対象として、看護計画を作成してポスター形式で全体発表、進行も学生が行い、教員はコメントや知識の追加提供を行った。		

(2) 学修評価について

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童青年期に起こるメンタルヘルスの問題について理解し、看護ケアについて考えることができる</li> <li>2) 代表的な精神疾患について自ら調べて、看護過程を展開することができる</li> <li>3) セルフケア理論を用いて、看護過程を展開することができる</li> <li>4) 精神医療と看護の歴史的な背景から精神障害およびメンタルヘルスの現状を理解できる</li> </ol>
成績評価の方法	<p><u>1. Active Learning (70点)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中間発表用の資料（自己学習資料）14点（個人評価：教員による評価）</li> <li>2) 看護過程展開（看護記録用紙1-1と3）16点（個人評価：教員による評価）</li> <li>3) 自己評価（5点）+グループ内ピア評価（25点）</li> </ol> <p style="text-align: center;">合計30点（個人評価：学生による評価）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 最終発表時の他グループからの評価 10点（グループ評価：学生による評価）</li> </ol> <p><u>2. 講義 (30点)</u></p> <p>Active Learning 以外の内容から出題します。</p>

	<p>「子どものメンタルヘルス 1・2」、「治療プログラムとケアマネジメント 1・2」、 「統合失調症の看護」、「精神医療と看護の歴史と関連法の変遷」をしっかりと復習し ておいてください。</p> <p>配点が 30 点の為、試験時間は 30 分を予定しています。</p>
--	--

(3) 授業進行の概要と詳細

回	テーマ	内容	備考
①	オリエンテーション	1. 授業の流れ、評価方法など 2. Active Learning の目的・流れ 3. 精神看護の対象、健康-不健康モデル	Active Learning のグループ分 け 1G10 人 (307)
②	<b>Active Learning 1</b> ~映画視聴~	1. 映画「ツレがうつになりまして」	映画視聴の振替日
③	子どものメンタルヘルス 1	1. 子どものメンタルヘルスの問題と早期介入 2. 子どもの自立と看護の役割	講義 (307)
④	子どものメンタルヘルス 2	1. 児童虐待のメカニズムと看護	講義 (307)
⑤	<b>Active Learning 2</b> ~グループワーク~	1. グループディスカッション	GW (307)
⑥	<b>Active Learning 3</b> ~調べる~	1. 自己学習・フィールドワーク	自己学習
⑦	<b>Active Learning 4</b> ~グループ発表~	1. グループごとに発表 (1G 10 分)	調べたことの 資料配布 (307)
⑧	<b>Active Learning 5</b> ~セルフケア理論~	1. セルフケア理論とその背景理論	講義 (307)
⑨	<b>Active Learning 6</b> ~看護過程演習~	1. 映画の主人公 (うつ病) およびその 家族についての看護展開	グループ学習
⑩	治療プログラムと ケアマネジメント 1	1. 心理社会的介入について 2. 認知行動療法と心理教育	講義 (307)
⑪	治療プログラムと ケアマネジメント 2	1. Social Skill Training と ACT 2. アドヒアランスと看護の役割	講義 (307)
⑫	<b>Active Learning 7</b> ~看護展開演習~	1. 映画の主人公 (うつ病) およびその家 族について看護展開	グループディスカッション (307)
⑬	<b>Active Learning 8</b> ~看護過程発表~	1. 看護過程についての最終発表	ポスター発表 (在宅支援実習室)
⑭	統合失調症の看護	1. 統合失調症と看護の役割	講義 (307)
⑮	精神医療と看護の歴 史と関連法の変遷	1. 精神医療と看護の歴史の概観 2. 精神看護に関連する法律とその変遷	講義 (307)

(4) 学生評価

	とても そう思う	そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	合計
今回のような授業形態は面白い	31 (47.7%)	32 (49.2%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)	65 (100%)
今後もこのようなActive Learningを取り入れてほしい	25 (38.5%)	36 (55.4%)	3 (4.6%)	1 (1.5%)	65 (100%)
今回のような授業は看護師として働くようになったときに役に立つと思う	36 (55.4%)	27 (41.5%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	65 (100%)

Active Learning 終了後の授業評価：自由記載(45名が授業評価の自由記載欄に記載した)

1. このような授業は、自分の視点だけでなく、グループのみんなの意見も聞くことが出来て、より効果的だと感じました。また、グループのメンバーと話し合うことで自分の知識不足にも気付くことが出来ました。このような Active Learning を後輩にも取り組んでもらいたいと感じます。発表の時にいろんなグループを見て回るのもすごく良かったのですが、1グループずつ発表して、みんなで聞く方が、私は集中できるなと感じました。
2. 同じ事例を使っているアセスメントの書き方、内容、どこに重点を置くかは十人十色で、皆のアセスメントがとても参考になりました。看護診断をつける時も色々な視点からみることでよりツレさんのニーズに合うものを選べたように思います。班活動自体は楽しいのですが、班員は半分でよかったように感じます。(話し合いで声が届かない、講義時間以外で集まる際、大人数だと都合をつけるのが難しいため)
3. Active Learning は自分が分からないことに対して、自ら解決しようとして学びが深まっていくので、とても良い授業形態だと思った。自己学習していく中で、分からないことはたくさんあったけど、グループ内で問題を共有することにより、理解が深まった。
4. 他のアセスメントではペーパーペイシエントなので情報がすでにそろっている状態でしたが、今回は「映画を見て」だったので、情報収集 という点では他よりも意識して取り組むことができたのではないかと思います。また、ケアプランまでの看護過程も他ではしていなかったので難しいと感じる部分はありましたが、自分のグループ内での意見交換、さらに他グループとの意見交換の場があり、他の人たちが持つ視点を知ることができました。また、グループ発表の形態について、前で発表する形ではなく自分のペースでゆっくりとみてまわることができ、また発表者との距離も近く、質問しやすい環境だったと思います。
5. 今回のような授業形態は初めてだったので少しとまどいました。しかし、講義形式よりも学ぶことは多かったと思います。講義では教科書の内容だけで満足していますが、今回はたくさんの資料に目を通しました。ただ10人でのグループワークは非常に厳しい部分がありました。皆の都合が合わない、情報の共有に時間がかかる、307教室で集まってもメンバーの声が聞こえない・・・など・・・時間も少し長いなと思いました。記憶が曖昧になり情報の食い違いがありました。少人数、短期間で行えばやりやすいのではないかと思います。

6. グループのメンバーが 10 人で少し人数が多かったので意見や資料の集約が大変でした。発表のために GWでの話し合いや資料作りに時間をとられて大変だったけど、他のグループの発表を聞くことで学びを深めることができよかったですと思う。受動的な講義だけでは学べない、積極的な活動が行えたと思う。
7. 自分ひとりの意見や考えでは、対処できなかつたり、展開が難しかつたりすることも、少し自分の考えを言うだけで、グループの人が付け加えたりサポートしてくれるので、そこから自分の意見をよい方向に向けることもできるし、全く違うことにも気づくことができるので **Active Learning** のような授業形態は視野が広がって良いと思います。
8. グループ内の一人一人に役割が分担されていたので、責任感を持ってすることができた。看護展開の組み立てをするとき、どの時期でのアセスメントをすべきかまよった。
9. グループの人と協力しあつて 1 つのまとめを作るのは、一人で勉強するよりも多くのことを学べて、すぐくためになったと思います。
10. **Active Learning** を取り入れている授業は他にはなく、非常に学びのある、面白い授業となりました。グループワークとなると自分の意見が発言しやすくよかつた。また、他者の意見を聞きやすくよかつた。かなり期間をとって頂いたということも今回の学びの成功を表していると思った。今後も **Active Learning** を取り入れて頂きたいと思います。
11. 大変な面（日程、時間調整、グループの人との協力）は多いですが、自ら積極的に動かなければ物事が進まないという点で、やる気もでて、すべてが終わつた時に達成感のようなものを得ることが出来ると思います。また、自分ひとりで取り組むとよく焦点がずれてしまつたりするのですが、みな意見をきいて修正したり、新たな考え方に刺激をうけたりできます。
12. 1 グループにつき 10 人は人が多すぎると思いました。なかなか全員の日程がそろわず、結局、授業に意欲的に参加しようとする少数で今回のグループワークを終えることになってしまつたからです。

成績の分布	AA が 53%A が 40%で、欠席がなくグループで担当した調べる内容をきちんとまとめてきたり、グループに貢献した学生が高い評価。試験で点数が取れずに B・C 評価の学生はいたが、ほとんどの学生はアクティブラーニングでは高い評価点をとっている。
-------	---

全体の振り返り	<p>1) アクティブラーニングへの学生の取り組み姿勢</p> <p>これまでも授業で活用してきた映画と、IBL の手法を若干取り入れた授業展開を試みた。今回の対象学生は 1 年生の時に IBL を体験していたためか、調べる項目を書き出す、調べる項目を分担する、グループ発表を進める、グループで討議するなど、全てにおいて学生主体でスムーズに進行していた。しかし、学生の記述評価の中には、一部のグループで協力する学生としない学生がいたことが書かれていて、ピア評価が低い学生と一致しているようであった。これについては、学生は 1 G が 10 人が多くて授業外で集まるのが難しいのが要因の一つと考えているようであった。しかし、看護では 1 年生と 3 年生のときに、IBL を実施して 10 名のグループであるが、グループごとにチューターがつき、チュートリアル室を使用することが、今回と大きな違い</p>
---------	--

	<p>である。一部の学生がグループに貢献度が低い理由として、狭い教室で、教員2名だけでサポートしているという環境要因も大きいのではないかと考える。</p> <p>2) 学習環境</p> <p>使用している教室は、非常に狭くグループ間の空間がほとんどないような環境であるため、10人の大きなグループだとお互いの声が聞こえにくく、ストレスフルな環境の中でよく取り組んでいたと思うが、グループ凝集性を高めるためには、大きな障害となっている。</p> <p>学生は、1限から4限あるいは5限まで授業が詰まっているような、カリキュラムの中で、多彩な項目を抽出して、よく調べてきていた。テーマがうつ病と看護であったため、疾患や自殺との関連などこのグループも調べてきているものと、グループによって全く違う視点で調べてきている項目もある、一方的な授業では盛り込めないような内容と量であった。</p> <p>3) 教員の役割と TA,SA の導入について</p> <p>学生が調べてきたものをすべて集めて1冊の資料集とした。それを参考にして、映画の主人公の看護計画を立てるのが、次のステップであった。この取り組みの前に、看護計画に関連する理論の授業を実施したが、理論を応用して看護計画を立てることが難しかったようである。この段階では TA や SA を導入できるとかなり効果的ではないだろうか。看護計画のポスター発表では、直接学生同士が、積極的にほかのグループに質問していた。教員は、介入が必要なケース（うつ病のケアプランの原則が抜けているなど）には、具体的にアセスメントの方法などをミニ講義的に行うこともした。基本的には、どうしてこのケアプランが導かれたのか質問するように心がけた。</p> <p>また、良かった点、工夫していることを、具体的にしっかりほめることも重要な点である。</p>
<p>今後の改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少ない教員で70名の学生を対象にアクティブラーニングを実施するには、TA, SAの導入が必要である。</li> <li>・学習環境として、教室の広さや演習室の確保など考慮すべき点があるがTAなどの導入がないと工夫にも限界がある。</li> <li>・映画を複数準備して、学生の興味ある疾患を選択できるような工夫をすると、学習の動機づけとして効果があるのかもしれないので、トライしてみたい。</li> <li>・学生が戸惑わないようなオリエンテーションとガイディング資料を作成する必要がある。</li> </ul>

## 5) アクティブ・ラーニングの充実にに向けた提案

ポイント提案	<p>一度、IBLやPBLなどを体験した学生は、その後のグループ学習やグループ発表などで自主的な行動をとることが当たり前になるようである。学年の早い時期に、導入すると、その後の授業でアクティブラーニングが導入しやすいと感じる。</p> <p>学生は、問題（課題）発見、自己学習という体験を&lt;面白い&gt;と捉えていて、部分的でも、アクティブラーニングが導入すると学習意欲の向上につながると実感している。</p>
参考になる資料	IBLについては別添資料を参照して下さい。